

ちたどいゝ海に何やら透明の長いものが  
うかんできた。くらげ？　サマエミタラ、それが  
おぼえてくはなれて、１つにはあかき。  
まじい。そのまじい、これとあかきのが、  
とはハットボトに入れている。謝りながら、  
うん、無きもの動物と判明月。いや、一ぱいみだした。

5月にはこんなことしまひて、

- ・ぐくらんぼうみ
- ・茶つみ
- ・お茶の葉のろう
- ・お茶作り
- ・竹やせり
- ・いしー
- ・甘っかー
- ・野いちごとりさんぽ
- ・おたまじやくとり
- ・又千貝まり
- ・お米のたねまき
- ・お茶会(スザナヒ)のいちご

**よ、ニのちエと おうちえん日誌**

(カ) エ とオウラの たねまきをした  
「オウラおいしいよね」  
だしのやう うまいよね。」  
(ヨ) 「おーい、ぶいいー!!」  
(サ オ カ)

(カ) 「しほい、ふいいー」  
(ヨ ま が … よね。)  
(タ)

「あさはたの  
君と歌いながら  
うた(35)は  
ていつつくりは  
13のふり」は、た  
って30。ライトな  
に「からのほ」  
あ(11) (5/15)  
か(11) (11)  
い(11) (11)  
と(11) (11)

土をきばにぶ米の 苗床を置く作業。午前中は、そ  
 ろろ お米、大きくおぬれ！  
 土をきばにぶ米の 苗床を置く作業。午前中は、そ  
 ろろ お米、大きくおぬれ！

ユキ/ミツの天/うが「いもよかつた！」  
 月/日に ゆき あや といったユキ/ミツ。  
 天/うを屋/うしといふ、たの あや もやう。  
 雨/が「ちやうどいっている。ど」でやう。  
あや が「ひかるハス」がいい。見にいふ。  
 やれやう。と4人。雨をものともしない。  
 にはくを洗う。持ていくものを準備する。  
 たちさんの荷/物を。かして運ぶ。カバンで運ぶ。  
 1回では。できないから。またどりにいふ。  
 ようう。と。やりたから。ぜんぜん。苦になさう。  
 その車/がさが「できない4人」。  
 といふ。天/うの半/分の集合とかきめる。あや。持てる。  
 かも。運ぶものもや。とる。  
 あや。ホ。ホ。い。する。と。い。あ。い。く。で。きた。と。  
 ミ。ミ。火。の。火。の。滅。に。苦。勞。した。ま。あ。や。め。も。  
 ミ。ミ。天/うを運ぶ時。人はかきさして「人か天/うの  
 しやいかえ。と。あやまで。あやに。い。く。何。往。  
 来た。かな。天/う。め。ち。も。あ。や。た。け。よ。く。売。れた。も。  
 かく4人の客が満足している。たのしかった。ね。  
 ミ。ミ。天/う。屋。さん。(5/13)

おいらせ =  
年長さんの夏キャンプの日程がましまりまじ。  
7/8(金) ~ 9(土)  
通塾保育後  
はい、お夏キャンプのみんなのほいめこの  
あいだまり。とてもたのしみです。詳細  
は後日、改めておしらせします。

6月のお母さんぐらーぽ

29日(水) 13:00~15:00

会場 新モみじのいえ

内容 ワーキンググループ

自分ちやっぴり感じる時間、Xマインのまもちをまもろう! 時間

※当日は、お申し込みの方には、事前にこのようにご連絡させていただきます。

[illegible]

昭和44年6月1日発行 第134号

叔母先生をたぐさん見つけると、という言葉を聞いたとき、  
自分ぞやること」と思いがまんばってきたからかもしれない。  
という気持ちも小さい頃から大きかった。時間と努力と  
あるかもしれない。人に任せて思ったような結果に  
もあった。それは「できる/できて」という喜びとい

「人に頼むか」が私の課題だと思っている。  
どどど作業が苦でなく、短い時間で終わり、疲れもほ  
んど実感して、ありがたう！と心から感謝の気持ち  
を同時に、「自分の中に一人ずつやることに対して  
「感謝」を感じることがあった。  
振り返れば、自分の能力を認めていたことを受け入れ、  
コンプレックスをとらぬ愛がある人だとわかれし、疲れを癒すと  
いって笑う国主だった自分の性質。思い込み。そんなのと  
きみ付いた。クセみ付いた。いまだから、簡単にには変えられな  
くして人に人を奪せしにしたりするコミュニケーションを子ども

濱口 昭子